

在宅看護学概論

必修

開講年次：2 年次後期

科目区分：講義

単 位：1 単位

講義時間：15 時間

■**科目のねらい**：在宅看護の歴史の変遷と現状や特徴を理解した上で、学問領域としての位置づけと実践現場における社会資源の活用や他職種との連携の概要を学ぶ。また、対象者の権利擁護・説明責任の基本を学び、家族の役割について学ぶ。

- 到達目標**：①在宅看護の歴史、機能、役割、病院内看護との相違を理解する。
②在宅看護とその対象者の特徴と文化を理解する。
③家族を定義し、在宅看護における家族の役割を理解する。
④在宅看護の実施機関である訪問看護の活動と看護の専門性について理解する。
⑤在宅ケアチームを構成する諸機関および専門職の役割と連携を理解する。
⑥在宅看護における権利擁護と説明責任について理解する。

■**担当教員**：

スーディ神崎 和代

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 在宅看護の変遷と歴史的背景
国際的視点からの在宅看護の歩み／日本の在宅看護の背景／社会的ニーズ
- 第 2 回 在宅看護とは何か
在宅看護学の定義／在宅看護の目的／在宅看護の特性／訪問看護システム
- 第 3 回 在宅看護における異文化アセスメントと対象者の理解
異文化アセスメントの6項目／療養者・家族／家族の定義と在宅看護における役割
- 第 4 回 療養者への理解
高齢者の理解／難病療養者の理解／小児療養者の理解／精神疾患療養者の理解
- 第 5 回 課題学修（予定） 学生が在宅看護を取り巻く地域課題を発見する機会とする
- 第 6 回 在宅看護活動
在宅ケアチームの構造／訪問看護ステーションの機能在宅看護への接続・連携／専門職者との連携、在宅関連クリニカルパスへの理解
- 第 7 回 在宅看護と倫理、権利擁護と説明責任
在宅看護の現場で発生しやすい倫理的課題に触れ、権利擁護の中で「事前指示書」についても説明する
- 第 8 回 在宅看護の諸課題
1-7回の学習を踏まえて、在宅看護が直面する課題と解決策について考察する機会とする

*講義の順番は進行状況により調整をする可能性がある。

■**教科書**：『在宅看護学講座』（2012）／スーディ神崎和代 他（ナカニシヤ出版）

■**参考文献**：適宜、紹介する。

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標						評価基準	評価割合 (%)
	到達目標 ①	到達目標 ②	到達目標 ③	到達目標 ④	到達目標 ⑤	到達目標 ⑥		
定期試験	○	○	○	○	○	○		70%
レポート	○	○	○	○	○	○	課題の理解、内容、レポート構成	15%
授業態度	○	○	○	○	○	○	講義への取組み姿勢 授業態度、討論への参加など	15%
出席							1回の欠席につき5点減点 但し、1/3以上の欠席は欠格とする 代理で出席カードを提出するなど不正があった場合は1回で欠格。	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：在宅看護学は日本の医療のこれからを担う重要な看護学分野です。可能な限り日常生活を継続しながら療養をする在宅看護の対象者を人として全体的に捉える姿勢が大切です。あなたの周りに在宅看護（訪問看護）を受けている方が居られましたらお話を伺ってください。